

浅在性化膿性疾患に対する RU 28965の使用経験

深谷 徹・高橋祥公・大河原 章

北海道大学医学部皮膚科学教室

1. 浅在性化膿性疾患13例に対して RU 28965を1日200~400 mg, 6~22日投与した。
2. 総合判定で、極めて有用9例, 有用1例, やや有用3例であり, 有用以上の有用率は76.9%であった。
3. *Staphylococcus aureus*の検出された4例のうち3例はRU 28965投与により治癒を認めた。
4. 副作用, 臨床検査値異常は1例も認められなかった。

RU 28965は, エリスロマイシンの誘導体で, 日本ルセル(株)で開発中の新しい経口マクロライド系抗生物質である。

本剤の特徴は胃酸抵抗性にすぐれ, 従来のマクロライド系抗生物質よりも吸収が良く, 半減期が長いとされている。

今回, われわれは本剤を皮膚科領域の浅在性化膿性疾患に使用する機会を得たので, その成績を報告する。

I. 対象および方法

対象は1986年3月から6月までの間に当院皮膚科外来を受診した皮膚感染症患者13例である。

なお, 対象疾患となる浅在性化膿性疾患群を以下のよ

うに6群に分けて検討を行った。

第I群: 毛嚢炎(毛包炎)

第II群: 癩, 癩腫症, 癬

第III群: 伝染性膿痂疹, 膿痂疹性湿疹

第IV群: 蜂巣炎, 丹毒, 表在性リンパ管炎, 化膿性爪囲炎, 瘰癧, 感染性血栓性静脈炎

第V群: 皮下膿瘍, 化膿性汗腺炎, 感染性粉瘤, 集簇性瘻瘻, 慢性膿皮症, 肛門周囲膿瘍

第VI群: 外傷・熱傷・手術創などの二次感染, 感染性褥瘡

本剤の投与方法は1回100~200 mgを1日2回, 朝夕食前に経口投与した。投与期間は6~22日, 平均12.8日であった。

効果判定は各群ごとに以下のように自他覚症状の評価項目を定め, 原則として治療開始日, 投与3日後, 7日後, 10日後, 14日後に観察を行った。

第I群: 丘疹, 膿疱, 硬結

第II群: 硬結, 自発痛, 圧痛, 発赤, 腫脹

第III群: 水疱, びらん, 発赤, 発疹新生

第IV群: 硬結, 自発痛, 圧痛, 発赤, 腫脹

第V群: 硬結, 自発痛, 圧痛, 発赤, 腫脹

第VI群: 自発痛, 圧痛, 発赤, 腫脹, 膿苔附着, 浸出液

臨床効果は, 上記観察日毎に投与前と比較した症状の改善度を総合して, 治癒, 著しく改善, かなり改善, やや改善, 不変, 増悪, 著しく増悪, の7段階で判定した。

細菌学的検討は, 治療開始日および可能なれば投与後にも実施し, 細菌学的効果を陰性化, 一部消失, 菌交代, 不変, 不明の5段階で判定した。なお, 分離同定した菌株についてのRU 28965のMICを日本化学療法学会標準法によって, 東京総合臨床検査センターにおいて行った。また, 副作用および臨床検査値異常の有無についても観察を行い, これらの結果を総合して有用性を, 極めて有用, 有用, やや有用, 有用とは思われない, 好ましくない, の5段階で判定した。

II. 成績

各症例の治療経過をTable 1に示す。治癒症例は13例で, 男性4例, 女性9例, 年齢は18~64歳であった。疾患の内訳は, 毛嚢炎2例, 癩1例, 癩腫症1例, 膿痂疹性湿疹1例, 化膿性爪囲炎1例, 表在性リンパ管炎2例, 慢性膿皮症1例, 化膿性汗腺炎1例, 感染性粉瘤2例, 二次感染(熱傷の二次感染)1例であった。臨床効果は治癒8例, 著しく改善2例, やや改善3例で, かなり改善以上の有効率は76.9%であった。

細菌学的検査では, 検査を施行し得た9例から菌を分離同定した。そのうち *Staphylococcus aureus* を検出した4例のうち3例では菌の陰性化を認めた。

副作用および臨床検査値異常は認められなかった。

以上の結果を総合して判定した有用性をTable 2に示す。極めて有用9例, 有用1例, やや有用3例であり, 有用以上の有用率は76.9%であった。

III. 考察

RU 28965は, エリスロマイシンの9位のケトン=2-

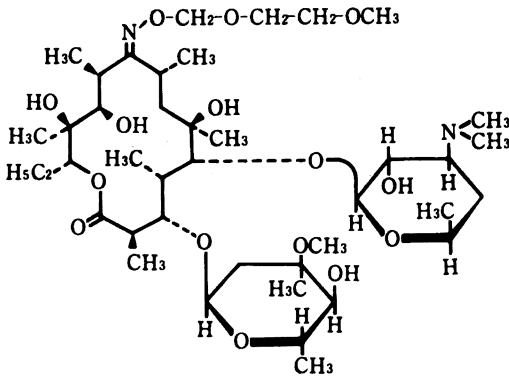
Table 1 Overall survey of cases

Group	No.	Age Sex	Diagnosis	Underlying disease	Organism	RU 28965 mg/day X days	Bacterial effect	Clinical effect	Utility	Side- effects
I	1	37 F	Folliculitis	(-)	<i>Staphylococcus</i> sp.	300 X 14	Unknown	Cured	Extremely useful	(-)
	2	22 F	Folliculitis	(-)	<i>Staphylococcus</i> sp.	200 X 15	Unknown	Slightly improved	Slightly useful	(-)
II	3	26 M	Furunculosis	Atopic dermatitis	<i>S. aureus</i>	300 X 11	Eradicated	Cured	Extremely useful	(-)
	4	27 M	Furuncle	Spinal tumor	<i>Staphylococcus</i> sp.	200 X 14	Unknown	Cured	Extremely useful	(-)
III	5	21 M	Eczema impetiginosum	(-)	<i>S. aureus</i>	300 X 13	Eradicated	Cured	Extremely useful	(-)
IV	6	35 F	Suppurative paronychia	Multiple sclerosis	<i>Candida</i> sp.	300 X 20	Unknown	Slightly improved	Slightly useful	(-)
	7	45 F	Superficial lymphangitis	Scleroderma systemic progressive	Not tested	300 X 6	Unknown	Cured	Extremely useful	(-)
	8	64 F	Superficial lymphangitis	(-)	Not tested	200 X 7	Unknown	Cured	Extremely useful	(-)
V	9	20 M	Chronic pyoderma	(-)	<i>S. aureus</i> <i>S. pyogenes</i>	400 X 22	Unknown	Markedly improved	Extremely useful	(-)
	10	18 F	Sweat gland abscess	(-)	Not tested	200 X 10	Unknown	Cured	Extremely useful	(-)
	11	36 F	Infectious atheroma	SLE	<i>S. aureus</i>	400 X 15	Eradicated	Cured	Extremely useful	(-)
VI	12	50 F	Infectious atheroma	(-)	<i>P. vulgaris</i> <i>P. anaerobius</i>	300 X 8	Unknown	Markedly improved	Useful	(-)
	13	21 F	Secondary infection	(-)	<i>P. aeruginosa</i>	400 X 11	Unknown	Slightly improved	Slightly useful	(-)

Table 2 Utility

Group	Diagnosis	Utility					Total
		Extremely useful	Useful	Slightly useful	Not useful	Undesirable	
I	Folliculitis	1		1			2
II	Furuncle	1					1
	Furunculosis	1					1
III	Eczema impetiginosum	1					1
IV	Superficial lymphangitis	2					2
	Suppurative paronychia			1			1
V	Sweat gland abscess	1					1
	Infectious atheroma	1	1				2
	Chronic pyoderma	1					1
VI	Secondary infection			1			1
Total		9	1	3			13

Fig. 1 Chemical structure of RU 28965



9-[O-[(2-Methoxyethoxy)methyl]oxime] erythromycin

Methoxyethoxymethyl oxime で置換した新しい半合成マクロライド系抗生物質であり、その化学構造式を Fig. 1 に示した。本剤はエリスロマイシンとほぼ同等の抗菌スペクトラム、抗菌活性を有し、また、胃酸抵抗性にす

ぐれ、従来のマクロライド系抗生物質よりも吸収が良く、半減期が長いという特徴を持っている。臨床においては、従来のマクロライド系抗生物質の約1/4量で同程度の効果が期待される。実際、われわれは1日200~300 mgの投与量で、有効率76.9%という良好な成績を得ることができた。

浅在性化膿性疾患においては、*Staphylococcus aureus* が主要病原菌である。われわれの症例でも、細菌学的検査を施行し得た9例のうち4例で *S. aureus* が検出された。その4例のうち3例ではRU 28965投与により菌陰性化がみられ、治療が得られた。RU 28965が *S. aureus* 感染に対して有効であることが示された。

文 献

- 1) CHANTOT, J. F. BRYSKIER, A. : Pharmacokinetic properties of the new macrolide RU 28965 in animal. Proc. the 14th International Congress of Chemotherapy. Antimicrobial section 2, 1985

RU 28965 IN SUPERFICIAL SUPPURATIVE SKIN INFECTIONS

TORU FUKAYA, YOSHIMASA TAKAHASHI and AKIRA OHKAWARA
Department of Dermatology, Hokkaido University, School of Medicine

1. A daily dose of 200~300 mg of RU 28965 was administered to 13 patients with superficial suppurative skin infections for 6~22 consecutive days.
2. The results of the general evaluation were extremely useful 9 cases, useful 1 and fairly useful 3, with a utility rate of 76.9%.
3. In 3 of the 4 patients in whom *Staphylococcus aureus* was detected, the disease was cured after the administration of RU 28965.
4. Neither side-effects nor abnormal clinical test values were observed in any of the cases.